

栗本環境自主行動計画

栗本環境自主行動計画

持続可能な循環型経済社会の構築に貢献していくため、2000年2月に栗本環境自主行動計画を制定しました。「地球温暖化対策」「ゼロエミッション構想の導入」「環境負荷低減技術の集約・環境調和機器の開発」「環境対応企業としての社内教育と広報活動の推進」という4つの重要課題について、行動目標を設定し、各事業所で目標達成のために様々な活動を行っています。

栗本環境自主行動計画

地球温暖化、資源の枯渇、廃棄物の増大など、地球的、地域的環境問題が深刻化する中で、大量生産・大量消費・大量廃棄という経済構造の見直しや、それに伴う企業環境経営、企業生産活動のあり方についての早急な変革が求められている。このような状況の中において当社もあらゆる活動において環境との調和を一層強化し持続可能な循環型経済社会の構築に貢献していかなければならない。そのために栗本環境委員会および国際環境規格であるISO14001環境マネジメントシステム等の有効かつ効果的活用により環境保全創造活動、環境調和機器開発等の自主的、積極的な取り組みを推進することが極めて重要である。その認識の下、当面する重要課題である次の項目について自主行動計画を策定し環境行動指針とし、その推進に鋭意努力するものとする。
(制定日:2000年2月22日)

重点取り組み項目

	重点取り組み項目	目標	事業所での取り組み事例
1	地球温暖化対策 (CO ₂ 排出抑制)	<ul style="list-style-type: none"> 今後10年間でCO₂排出量(C換算)の3,300t-C削減(1998年度基準) 1)省エネ効果 2)コークス使用量の削減 3)環境調和機器の供給(含 植林効果) 	<ul style="list-style-type: none"> トラック乗務員の休憩室の設置、フォークリフトを電動台車に変更するなどの物流の効率化を推進(輸送時のCO₂排出量を2008年度までに6%削減) 低周波炉の使用法変更(2連休の場合1炉当たり8,500kWの電力消費量削減) 刈草のごみ固化燃料(RDF)・炭化技術の開発(植物が吸収したCO₂を炭素として固定)
2	ゼロエミッション構想の導入 (資源循環型経済社会の実現に向けて)	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入 LCA設計 環境基準値より余裕の達成 化学物質による環境負荷の低減 企業間ネットワークによる廃棄物の再利用 	<ul style="list-style-type: none"> ブラッキング汚泥のリサイクル(年間7tのブラッキング汚泥を中子の塗型材料として再利用) キュボラスラグのリサイクル(年間約5,000tのキュボラスラグを土壌改良材などに再利用) 耐火煉瓦のリサイクル(耐火煉瓦を両面使用や耐火物変更により寿命を延長し、廃棄物量を年間5,580kg削減) 軍手・ウエスのレンタル化
3	環境負荷低減技術の集約・環境調和機器の開発	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷低減技術および機器の開発 キュボラCO₂削減技術開発 土壌汚染浄化システムの開発 	<ul style="list-style-type: none"> ソーラーウォール 土壌・地下水浄化システム 生ごみバイオガスプラント 流動床ガス化溶融システム コンポスト化発酵乾燥装置など環境調和機器の開発・販売
4	環境対応企業としての社内教育と広報活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 社員階層環境教育 社内報「環境コーナー」 環境講演会、研修会 環境リーダーの教育 資格取得支援 環境報告書、環境会計の発表 	<ul style="list-style-type: none"> 大和川・石川クリーン作戦に参加 インドネシア・ジャワ島の植林活動を支援 工場周辺の環境美化活動を実施